

ジャグパル

JugPal

2000年3月1日 第7号



サイバー・インタビュー

【小出 直樹 さん】

はじめに：

プロのアーティストである小出直樹さん<koidekun@pop06.odn.ne.jp>に寄稿をお願いしたところ、何かテーマとなるようなことを考えてくれれば書きますよとご返答をいただき、無理難題なことを含め幾つか提案させていただいたところ、その中から主に「キャラクタ創り」に関することについて書いていただきました。

なお今回の記事はメールのやりとりで完成させることができたのですが、仕上がってみるとインタビュー形式になっているので、勝手に「サイバー・インタビュー」と名付けました。
どうぞお楽しみ下さい。（ で始まる段落が私、 で始まる段落が小出さん）

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

小出さんの経歴について教えていただけますか。

高校卒業後、設備関係のエンジニアの仕事をしていましたが、ある日何気無く行ったアメリカのリングサーカス東京公演のクラウン（道化師たち）を観て、人生初めてと言ってもいいくらい感激してしまいました。

そして会社を辞め、1989年にクラウンカレッジジャパンというところで、クラウンギャグ、キャラクター創り、お客さんとのコミュニケーションのとりかた、そしてジャグリングの基礎などを学びました。その後1991年からジャグリングで人を楽しませる事に興味を持ち、都内などでストリートパフォーマンスをはじめました。

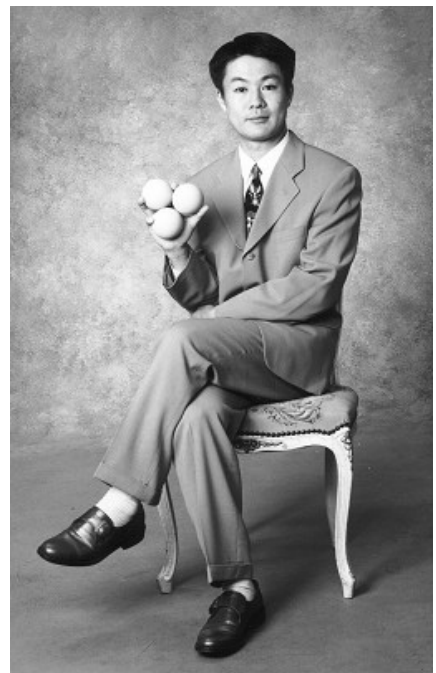
最近ではテレビチャンピオン「ストリートジャグラー - 王選手権」に出演し見事！1ラウンドでリタイア。
大道芸ワールドカップ in 静岡にも出演していますが、毎年下位で奮闘。（ただし地下組織のあいだでは絶大な人気をもっている！？）

キャラクタ創りについて：
必ずしも私生活の上での性格が、パフォーマンスの上でのキャラクタと合致しないところにアーティストの面白さが感じられるのですが、いわゆるパフォーマンスでの「キャラクタ」というのは、どのように創りあげていくのでしょうか。

普段の時とショーの時のキャラクターが、極端に違う人もいればそのままという人もいます。

今回は私が思うキャラクターについて書かせていただきます。キャラクターの事を文章で伝えるには上手く説明できないところもあるのですが、そのへんは御理解下さい。

例えばジャグリングを観せるにしても現象は同じ訳です。それをいかに面白くみせたり、凄くみせたりするかは、その演じる人のキャラクターによるところが大きいと思います。



まずは普段生活してる時の自分の性格を分析、研究してみましょう。
例えば人と接している時の印象の良いところなどをまず分析して、ショーのキャラクター創りにもっていきと良いのではないのでしょうか。

当たり前のことですが、舞台上で役者が自分の役を最後まで演じるように、ショーのなかではそのキャラクターを崩さず、その場その場のシチュエーションに応じてどういう動きを自分はすべきかを、急には無理ですが少しずつ分析して挑戦してみてください。

ジャグリングの技術だけみせているステージ形式でもやはり拍手をもらうポーズやタイミング、次のネタに移る動きなど、その人によって違うはずですが、簡単なトリックを難しくみせたり、お約束なネタでもその人のキャラクターの「ま」のとりかたで色々に変化すると思います。

経験上すぐには自分に合ったキャラクターは見つからないでしょうが、色々試して自分がやってみて、無理せず演じられるものを見つけて忘れずに磨きをかけていきましょう。
目に見えづらい地味な作業ですがその重要性は後になってわかるはずですが。

- 1技もしゃべりも「ま」が大事。
- 2キャラクターはパクらず自分で見つけよう。
- 3人が楽しくなる、笑う、感動するにはどうしたらいいか？ 常に意識しよう。

以上キャラクターについて、少し書かせていただきました。読者の皆さんの参考になったら幸いです。

営業ネタについて：
ジャグラーの方は、チャレンジ精神に富んでいると思います。常に自らの目標を上げていき、新しいトリックを習得していくための努力は惜しまない方が多いと信じています。

しかしいわゆる「営業」では、失敗は許されないでしょうし、観客に受け入れられるかどうかの不安もあるでしょうから、そんなにネタをコロコロ変えるわけにはいかないかと推測いたします。

そのような状況の中で、自分のチャレンジしたいトリックと営業ネタとのギャップというのは、どのように整理して埋めていくのでしょうか。

つまりあまり営業向きではないと分かっているけど、例えばナンバーズに挑戦したいという気持ち、あるいはとてつもなくマニアックなトリックを習得したいという気持ちが沸いてきたときに、どうするのでしょうか。

普段あまり自分はジャグラー - だと思ってやってないので何とも言えません。

人それぞれやり方は違うし本気でこの道一本でやりたい人には教えたいのですが、最近フェスティバルなどで集団でビデオだけ撮って、ネタをそのままパクるジャグラー - オタクちゃんなど、非常識な輩が多いので多数の人が読むこのようなところには書けません。ごめんだニヤ～！

今後のご予定をお聞かせ下さい。

小出直樹・ソロライブ 『ふりにげ』
日時：3月15日(水)開演19時30分
場所：planB (丸の内線中野富士見町・下車徒歩7分)
料金：当日 2,000円 (前売 1,500円)
予約/問い合わせ：

ACC (Tel :03-3403-0561, E-mail :accircus@mail3.alpha-net.ne.jp,
WebSite :http://www3.alpha-net.ne.jp/users/accircus/)

特典

本号(ジャグバル7号)を持参された方は、前売り料金で入場できます！

(注)Web で読んでいる方は印刷して持ってきてね。





サークル紹介

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。
今回は 京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts の紹介です。また日本ジャグリング協会のジャグリングクラブ紹介のページ(<http://www.juggling.gr.jp/>)にも国内の多くのクラブが紹介されています。

京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)・・・本号にて紹介

<http://juggling-donuts.org>

福岡ジャグリングクラブ FJC(福岡)・・・6号にて紹介

<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/ooshige/Juggling/>

筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会 筑駒Jugglers (東京)・・・5号にて紹介

<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>

所沢 Juggling Club "JUGFLY" (埼玉)・・・4号にて紹介

<http://raphael.mech.kogakuin.ac.jp/ichiro/juggling/jugfly.html>

綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)・・・3号にて紹介

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/9108/>

ジャグリングクラブ マラバリスタ (東京)・・・2号にて紹介

<http://msgkb.ms.u-tokyo.ac.jp/malabaristas/>

ジャグリングサークル JUG (大阪)・・・1号にて紹介

札幌ジャグリングクラブ (北海道)

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/2690>

練馬区ジャグリングサークル (東京)

<http://www.hi-ro.com/sin/>

市原ジャグリングサークル JugJug (千葉)

<http://www3.plala.or.jp/jugjug/>

静岡大道芸サークル WAPS (静岡)

<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/tomi/waps/>

大阪大学ジャグリングサークル Patio (大阪)

<http://hb3.seikyoku.ne.jp/home/morisan/patio/>

大津ジャグリングクラブ (滋賀)

<http://www.biwa.ne.jp/torisan/> [現状未完成]

京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts

Juggling Donuts(ジャグリングドーナツ)は関西ではまだ数少ないジャグリングのサークルの一つです。1998年京都大学の学生を中心に誕生し、その後徐々に活動範囲を広げています。最初は少人数のサークルでしたが、練習場所の確保やホームページによる広報によって少しずつ人数も増え、今では高校生、大学生、社会人含め20人ほどのメンバーが活動に参加しています。この場を借りまして私たちのサークルの活動内容を紹介するとともに、今後サークルとして目指していきたい目標も語らせていただきたいと思います。

サークルのメンバー

現在のメンバーは半数程度が京都大学の学生ですが、社会人も大勢います。また京都市内だけでなく、大阪や神戸など広い地域から練習に参加していただいています。サークルの活動に参加するのに住所や、年齢、所属等一切の制限はありませんし、特別な手続きはありません。

活動内容

練習日:

毎週土曜日と月曜日に体育館で練習を行っています。

お互いに新しい技を披露しあったり、アドバイスをしたり、ただ黙々と練習したりと、結構自由な雰囲気です。練習を終わる直前には全員参加のジャグリングゲームも楽しんでいます。

時間と場所は以下のとおりです。(時間、曜日、場所は変動しますので、詳しくはホームページをご覧ください。)

土曜日 :東山青年の家(京都市東山区東大路七条上ル 区役所奥)にて、午後1:00～午後6:00。

月曜日 :中京青年の家(京都市中京区東洞院通六角下御射山町262)にて、午後6:00～午後7:30。



出演依頼、大道芸:

ジャグリングドーナツではジャグリングを練習するだけでなく、その技を発表する機会をできる限りたくさん設けることも活動の目標にしています。地域の子供会や老人会など出演の依頼があれば積極的に応じていますし、毎年11月に行われる京都大学の学園祭では路上の一角を使って大道芸を披露しています。今後は公園や路上などで本格的な大道芸にも挑戦していきたいと思っています。

今後の目標

ジャグリングは第一級のエンタテイメントであり、レクリエーションであり、スポーツであり、芸術であると思われています。

しかし残念ながらその魅力は日本ではまだまだ知られていません。

ジャグリングドーナツの最大の目標は1人でも多くの人にジャグリングの楽しさを知ってもらう事です。それはすばらしいジャグリングの芸を見る楽しさでもあり、実際にジャグリングを練習してみても自分のできなかった事を少しずつ習得していく楽しさでもあります。

いきなり大々的なことをする事はできませんが、草の根的な活動の中で徐々にジャグリングに興味を持つ人の輪を広げていければと考えています。

ゆくゆくは関西を代表する大規模なジャグリングサークルになるという野望を抱いています。

サークルのホームページ

<http://juggling-donuts.org>

ジャグリングドーナツのホームページはサークルの紹介だけにとどまらず、少しでも多くの人にジャグリングについて知ってもらおうとジャグリングに関する多くの情報もあわせて紹介しています。

ジャグリングに使う道具の解説を始め、ジャグリング教本、ジャグリングの歴史などこれから分かりやすい面白い数多くの記事をホームページ上で掲載していこうと思っています。

1週間に1回ぐらいの割合で更新しています。これからの発展にどうぞ期待してください。

連絡先

代表 渡辺彰 <akira@juggling-donuts.org>

070-5041-6555

池田洋介 <yosuke@juggling-donuts.org>

090 9712 6912

[池田 洋介 <yosuke@juggling-donuts.org>]



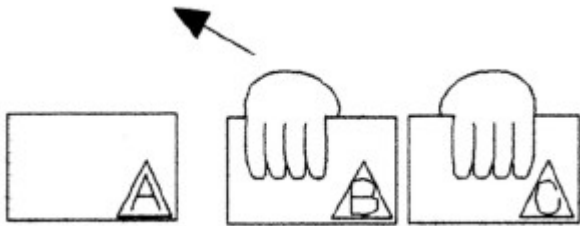
誌上ワークショップ

シガーボックス講座～その2～ : 石川健三郎 さん】

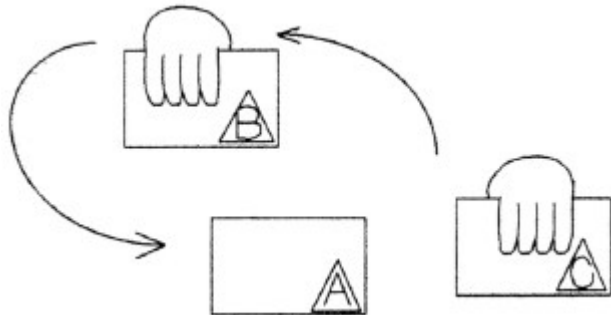
さて今回は前回のをふまえて応用と新しいトリックを紹介します。

Step5 リフト・アウト

テイク・アウトが上から下に向けての運動に対して、リフト・アウトはその逆。ホームポジションから、テイク・アウトの要領で真ん中Bの箱をつかみ、

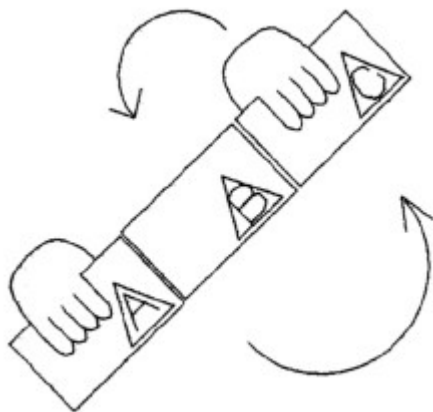


それを上に引き上げ、Aがあった場所へ。

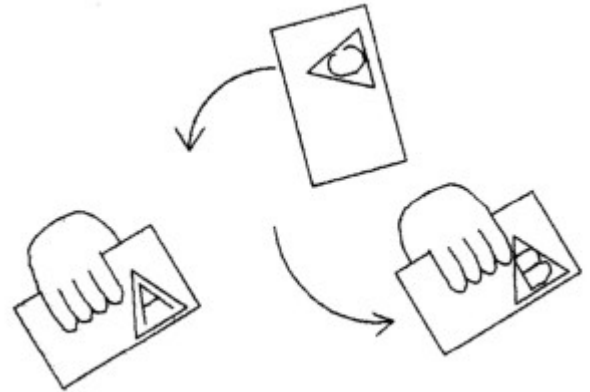


コツとしては真ん中の箱を抜くときに、テイク・アウトよりも箱を真上に抜くように。

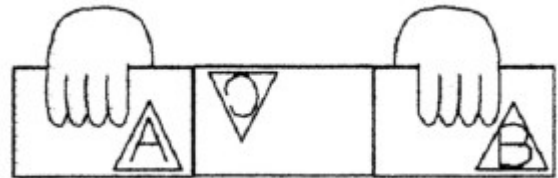
Step6 タンブル(Tumbles)



ホームポジションから全部の箱を素早く傾け、次に真ん中の箱Bをつかむ。

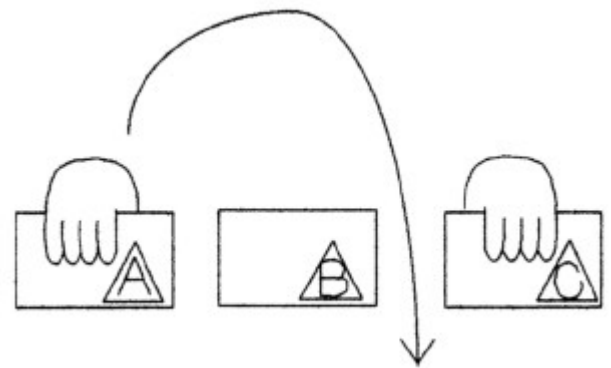


Cの箱は惰性で真ん中に逆さまに収まる。



一見難しそうに見えるけれど、やってみるとテイク・アウトよりも簡単かもしれません。左右連続で出来るとビューティフォー！

Step7 フェイク・テイク・アウト



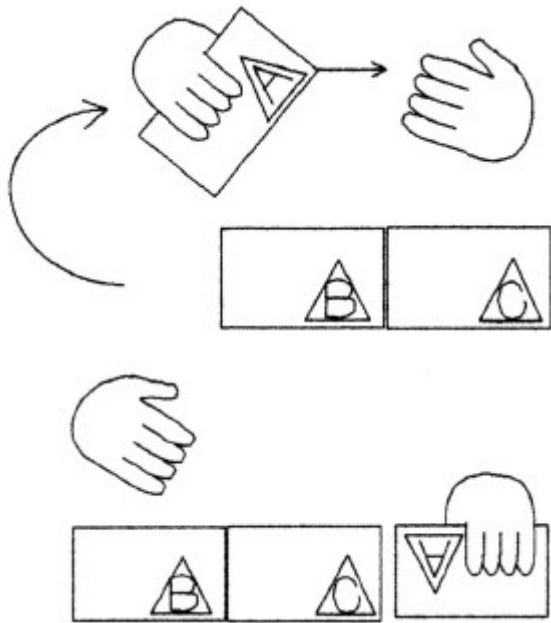
ホームポジションからAをBとCの箱の間を通す。フィニッシュはホームポジション。

<バリエーション>

左右と両手同時
テイク・アウト、リフト・アウトの組み合わせ。

Step8 スナッチ(Snatch)

ホームポジションからAの箱を反対側の手に手渡します。



ポイント:

シガーボックスでトリックをするときのポイントは、なんと言っても手を離すタイミング、つまり箱を離すタイミングです。テイク・アウトを例にとってみると、箱から手を離してから真ん中の箱をつかむ。これを真ん中の箱をつかむことに気を取られ過ぎると、手を離れた箱が回転したりしてしまいます。まずは、基本の「手を離す」で手を離れたときに全ての箱が真っ直ぐになっているかを確認しよう。それをマスターしてから色々なトリックに挑戦するのがポイントです。

さて、次回はより複雑なトリックと、複雑ではないが難しいトリックを紹介します。お楽しみに！

< バリエーション >

足の下や背中の中などでも出来るように試してみよう。

[プロフェッショナルジャグラー:

石川健三郎

<kenchan2@gol.com>]



ご報告

ジャグパル6号を発行した直後にディック・フランコさんの奥様から、千羽鶴を送ることを立案された女性経由でメッセージをいただきました。かなり遅くなってしまいましたが、ここに紹介させていただきます。なおその後も奥様の経過は順調とのことです。

December 12,1999

Dear Friends from Japanese Juggling Community,

Thank you all so much !

I am truly blessed to have you all praying for me.

I was so touched by the many prayers and all the hard work that went into making the Senbazuru.

I do believe that all your prayers have truly been answered,I was so happy when the doctor in LA said that the cancer in the brain is 99% gone and that it is really exceptional results.

What you all have done for me will forever have a special meaning in my life, I am so thankful to have such wonderful friends. Thank you all so very much.

Sincerely with love,
Carlene

親愛なる日本のジャグリング愛好家の皆様へ

まず皆様に御礼申し上げます。

私のために多くの方が祈っていただき、本当に私は恵まれています。

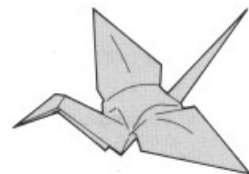
千羽鶴を折ってくださった方々の、その大変な労力を思うと感動いたしました。

皆様の期待に絶対応えられると信じていましたし、何より幸いにも先日のロサンゼルスでの検査では、癌細胞が99%無くなるという驚くべき結果がでました。

皆様にしていただいたことは、一生決して忘れることはないでしょう。

こんなにも素晴らしい友人達がいることに感謝しています。本当にありがとうございました。

愛を込めて
カーリン





書籍紹介

【花伝書 (世阿弥 著)】

著者の世阿弥(ぜあみ)は、今から600年ほど前の室町時代初期に活躍した能役者であり、謡曲(能の台本)の作者でもありました。

能の大成者としての彼の業績は実に偉大なもので、独創性・変革性の持ち主であった彼は、能の芸術性を著しく高め、彼の志向した路線が現在の能の繁栄をもたらしていると言えます。

役者のみならず作者でもあり、演出家でもあり批評家でもあった世阿弥は、世界の演劇史上にも希な天才で、文学的素養も手伝い数十の能楽論書を残しています。

この花伝書(本来は「風姿花伝」と言い、俗に「花伝書」)はそのうちの一作品で、父である観阿弥(かんあみ)の遺訓に基づいて書かれ、奥義を自分の子一人にしか読ませないといういわゆる「子相伝」の秘書であり、世に知られたのは書かれてから実に450年余経ってからのことでした。

そしてそこに書かれてあった内容は世の中を驚かせ、それ以来「世阿弥」に関する研究は盛んで、彼の数々の著作は能という一芸道の枠にとらわれない全ての芸術を対象とし得る芸術論、あるいは人生訓・教育論として今日も様々な立場から読者を引きつけ、世界的にも高い評価を受けて外国語訳が続出しているほどです。

ただし見方によっては、論書というより、いかに上達し、いかにして人気を得て、それをいかにして一生保ち、一座をどう繁栄させていくかということ、後継者に説いている極めて現実的なハウツウ本とも言えます。

少し話ははずれますが、私が最も尊敬するジャズミュージシャンの一人に秋吉敏子さんがいらっしゃいます。

1956年に日本人ジャズミュージシャンとして初めて米国進出を果たし、それ以来主な活動拠点は米国ですが、その米国で日本人ミュージシャンとして史上初の快挙を次々と成し遂げ、1999年には日本人としては初めての殿堂入りを果たし、まさしく名実ともにジャズ界の頂点を極めました。

才能あるジャズミュージシャンが星の数ほどいるジャズの本場の米国で、東洋人の彼女が歩んできた道のりがどのように険しいものだったかは、私には想像することすらできません。

米国内で一定の高い評価を得られつつも、どうしようもない壁に突き当たりジャズ界から引退すら考えた時に、彼女がこの「花伝書」を読み影響を受け、かつ試練をのり越えたということをインタビュー映像で知ったのが、この本を手にとるきっかけになりました。

ただしこの花伝書は、600年前の、能という特殊な芸能の秘伝書であり、しかも修練を積んだ演者が読んで初めて理解できるという性質の本で、専門用語も多く、能に精通していないと分からない箇所がたくさんあります。

従って原書ではなく、現代語訳が記載されている本を読むのが良いでしょう。

現代語訳も逐語訳(直訳)あり意識ありと様々ですが、一般的に現代語訳に解説を併記した書籍が多いようです。

著者が演劇評論家だったり能楽師だったり、あるいは演出家だったりと解説に関しては、著者の経歴により解釈の切り口が異なっているため、複数の書を読み比べてみるのも一興です。

近くの図書館に行けば、世阿弥や花伝書に関する本は数冊は必ず置いてありますから、自分にとって読みやすい本を借りてはいかがでしょうか。

しかしだからと言ってこれを読めば貴方も明日からスターなんてことはあり得るはずもなく、内容は何やら禅問答的なところもあり、人前でパフォーマンスを演じている人にとっては、こんなこと言われなくても実践しているよ、と感じるほど極めて常識的な記述もあるだろうし、あるいは何を今時こんなこと言っているの、と時代錯誤的な感を受ける箇所もあるかもしれません。

現在の私たちはありとあらゆるジャンルの芸能を楽しむことができます。

芸能を商業として捉えたときにカテゴリー分けは必要でしょうけれど、芸能の本質(それが何であるかは分かりませんが)を考えていけば、そのような壁は意味のないものになるでしょう。

この本からは芸能の源流あるいは本質が読みとれるような気がします。

いずれにせよ貴方がジャグリングという芸能を、演者や観客という関わり方はまちまちでしょうが、もっと楽しみたいと思っているのでしたら読んでみる価値はあると思います。

読めば読むほど、自分の立場に応じて人それぞれに感じることは違ってしまうでしょうが、読み応えは充分あると思いますし、ここで訴えている事は時代を超えた普遍的な真理がもたせません。

とにかくこのような書物が室町時代にすでに書かれていたとは、中世日本の文化的・思想的な水準の高さに驚かされると同時に、日本文化の素晴らしさを痛感します。

さて何故この伝書は「花伝」と名付けられたのでしょうか。それはこの本のテーマが「花」であり、始終一貫して「花」について語られているからです。

誤解を恐れずに言うならば、「花」とは演者の魅力・花やかさ・美しさ・人気などを指し、この花の秘密を説き明かしているのがこの本なのです。

『花は美しく人にもてはやされますが、何故もてはやされるのでしょうか。』

・・・貴方も考えてみてください。

さあそれでは七編から成っている花伝書の中を少し覗いてみましょう。

第一 年来稽古条々(としごろによる丸にいろいろ)

能役者の一生を7期(7歳、12・3より、17・8より、24・5、34・5、44・5、50有余)に分け、年齢の持つ特色をよく捉えながら、年齢に応じた芸の指導法、あるいは演者自身の心構えを説いています。

ただし現在は当時に比べ寿命も伸びているので、そのあたりは考慮して換算したほうが良いと思われます。

第二 物学条々(ものまねいろいろ)

物まねを9ジャンル(女、老人、直面、物狂い、法師、修羅、神、鬼、唐事)に分け、一つ一つについて人物・役柄・性格の表現法を肉体面・心理面から解説しています。

第三 問答条々

これは今風に言えばFAQ(Frequently Asked Questions)でしょうか。実際起きがちな問題の解決法を問答形式で具体的に指導しています。幾つか例をあげてみましょう。

能の始まる前に観客席の雰囲気や催しの成功・不成功を予知できるといいますが。
[読みどころ] 会場の雰囲気(空気)をつかんだ上でどのように対処していくのか、そして「陰陽の調和」の意味するところは?

上演に際して「序破急」のテンポをどのように決めれば良いのか。
[読みどころ] 事全てに「序破急」はあるというが、その意味するところは?

競演に際しての対策は。
[読みどころ] 昔は二つ以上の座が同日同会場で競演し、座の優劣を決めたそうですが、競演相手に打ち勝つ策とは?

第四 神儀云(しんぎにむく)

能の起源についての伝説・神話をつたえ、当時賤民視され、自らも卑下していた申楽人に誇りと自覚を持たせることを目的として書かれてあります。

第五 奥義云(おうぎにむく)

高位富貴から一般大衆に至るまで、観客から人気を得、それを保つためには芸域の広さが必要でありその工夫・秘訣を説いています。

第六 花修云(かしゅうにむく)

当時は能の台本を書くということ・書けるということが能役者にとって重要で、その心得を説明しています。

別紙口伝

「花は美しく人にもてはやされますが、何故もてやされるのでしょうか。」

・・・ここではこの問に答え、能の命たる「花」について解明し詳説してくれます。

是非全文を読んでいただきたいのですが、ここではエッセンスをご紹介します。

以下は「能の知恵/中森昌三著」から抜粋編集。

花はなぜもてはやされるか。

これは単に美しいからではなく、四季それぞれの時期に咲くから珍しく人の興味を引き、また花は散るから、それを惜しむ人の心が美しい・面白いと感じさせるのです。

つまり<花と面白きと珍しきとこれ三つは同じ心>なのです。

ただし花イコール珍しさといっても、何でも変わっていれば良いということではなく、役者が観客にとって魅力あるためには、いろいろな役柄を習得しておき、時・処・場合にに応じて観客の好みにぴったりとした演技を取り出して見せ、常に新鮮な感動を呼び起こす必要があります。

そのためには<種は技、花は心>とあるように花を知るには種を知らなければなりません。

いろいろ違った花の種をできるだけたくさん用意し季節の応じて次々と咲かせていくように芸を展示しなければなりません。

また、<秘する花を知る事。秘すれば花なり、秘せずば花なるべからず。>とあるように、ただ珍しさが花だと観客がみな承知していれば、「さあ珍しいことをやるぞ」と待ち構えている観客の前では、たとえ珍しいことをやってもそれを珍しいとは感じてくれません。

見る人にとって「花」と知らないでいればこそ演者の「花」になるのであって、見物はただ単に面白い・上手だとだけ見て、これが「花」と気付かないのが演者の魅力・すなわちそれが「花」なのです。

能には縁のない私でも、この花伝書は実に充分興味深いものでした。

これからは隠された「花」を追うミツバチになったつもりで、たくさんのジャグラーの演技を楽しんでいきたいと思っています。

また浮き沈みの激しい芸能界でトップの座を守りつつ、何十年もの間歌い続け、あるいは演じ続けている方々がいらっしやいます。そういった方々にある「失せぬ花」の謎について考えてみたいとも思っています。

参考文献(順不同):

「風姿花伝」
(世阿弥・著/野上豊一郎・西尾実・校訂/700円(本体)/ISBN4-00-007031-2/1991年初版)
原文を記載し、若干の注記はあるものの、難解で正直言っても手がでません。

「世阿弥アクティブ・メソッド」
(堂本正樹・訳/劇書房/1600円(本体)ISBN4-87574-541-9/1987年初版)
現代語訳(意訳)のみで解説文はありませんが、現代語訳はとて読みやすいです。

「能の知恵」
(中森昌三/玉川大学出版部/1976年初版)
原文を下段に、現代語訳を上段に記載し、節目ごとに著者の解説文を記載し、世阿弥の言わんとすることを具体的な例を引きあいにし出して分かりやすく説明しています。

「世阿弥」
(白州正子/講談社文芸文庫/940円(本体)/ISBN4-06-196394-5/1996年初版)
花伝書のみならず世阿弥の著書を通して、世阿弥が語りかける彼自身の世界を解き明かそうとするエッセイ。これもとても読みやすいです。

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]



高橋さとみさん、
素敵なイラストをありがとう!

【The Meteor Book (Rhys Thomas 著)】

流星ってご存知でしょうか？

中国雑技の芸の1つで、2メートルほどのロープの両端におもりをつけたものを真ん中を持って振りまわすと、遠心力でロープが伸びて一本の棒のようになり、バトントワリングのように自由自在に操ることができるというものです。

おもりに火を付ければ迫力が増すとともに美しく(火流星)、水を入れた器を付けばスリルが増すとともに遠心力で水がこぼれない不思議さを実感できます(水流星)。

私が実際に見たのは、静岡大道芸ワールドカップでのチャイナ・ニエ(ニエ・アールジョン、轟 二中)さんの演技が初めてでしたが、「中国にはこんな曲芸もあるのか!」と感心すると同時に、中国武術の棒術(棍)と共通する力強さや美しさも感じました。

興味を持てば「やってみよう」と思うのが人情ですが、何をどうやればできるようになるのか、見様見真似で分かるものではありません。

そんなところへ昨年の秋に発刊されたのが、アメリカのジャグラー、リース・トーマス Rhys Thomas の The Meteor Book という入門書です(英語圏では、中国語の流星がそのままミティオー Meteor と訳されています)。

Rhys Thomas は1999年の静岡大道芸ワールドカップにも招待されていたので、演技をご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか(私は残念ながら見に行けませんでした)。

普通のボールやクラブのジャグリングだけでなく、古典的な曲芸や東洋の曲芸などを自分の芸にとり入れて、独自のスタイルを作っている人です。古今東西の曲芸に関するさまざまな資料をたくさん集めて研究していることでも知られています。

The Meteor Book では、彼が独学で学んだ経験をもとに、流星を使ったさまざまな技についてひとつひとつ丁寧に説明するだけでなく、練習用の流星を自分で作る方法や演技を効果的に見せるための火流星、水流星などの作り方まで解説しています。

全体は大きく3章に分かれています。第1章では、ロープの真ん中の部分を余らせて、それぞれの手で1つずつのおもりを別々に振りまわす種類の技を扱います。

この種類の技は、左右の手に持ったクラブを振り回すクラブスイングとも共通しており、クラブスイングを練習した経験のある人にとっては簡単な応用問題でしょう。

第2章では、中国雑技での流星と同じようにロープの中心を握り、ロープ全体を伸ばして振り回す系統の技を解説しています。第1章、第2章は、どこからでも読めるように書かれており、興味を持ったところから読み始められます。

第3章は応用編でちょっと難しそうです。

それぞれの技には1ページまたは2ページが割かれ、まず技の内容と練習方法がイラスト付きで説明されます。その後、失敗しやすい点や練習する上でのポイント、応用技のアイデアが書いてあります。

文章の英語自体は、難しい言い回しや文法は使っておらず、ユーモアを交えた読みやすいものです。しかし、イラストが1枚ずつしかなく文章主体で説明をしているため、右手左手の区別、手の向きや握り方、ロープの回転方法などをきちんと追いつながら読む必要があり、読んで正しく理解するためには多少の根気が要るかも知れません。

これは、扱っている内容の性質上、しかたないでしょう。

でも、説明自体は明確で丁寧なので、何度も読み返せば必ず理解できるはずですよ。

あえて注文をつけるなら、ロープを握る手の方向や握り替えの部分はとても重要なので、これらにもイラストを付けて欲しかったところではあります。

欧米ではほとんど普及していない芸であり、著者も独学だったため、技の名前は著者の独断で付けられているようです。中には少々疑問の残る名前もありますが、しかたないでしょう。技の内容ややり方についても、Rhys Thomas が自分で試行錯誤して見つけたものであり、中国雑技の伝統的なものとは違う点もあるかも知れません。

中国雑技の芸についてアメリカ人が本を書くことを、本家本元である中国の人達がどう思うか私には分かりませんが、東西の曲芸文化の融合という意味では面白い本だと思います。

この本が発売されてから、アメリカのジャグラーの間では流星を練習する人が増え始めており、これから新しい技が発明されたり、新しい見せ方が考え出されたりするかも知れません。

流星は、クラブスイングやバトントワリングとも共通の要素がある上に、棒(棍)や槍を使った武術との共通点もあり、いろいろな応用や発展の余地があると思います。

なお巻末には、出版元の Flaming Sparrow Press を経営しているジャグラー Eric Bagai による3ページにもわたる丁寧な「火の扱いに関する注意書き」が載っています。火流星に限らずトーチジャグリングなどで火を使おうとするジャグラーにはぜひ読んでもらいたい内容です。

ほぼ同じ内容のものが

<http://www.foreworks.com/fire.html> でも読めます。

書名 :The Meteor Book: Construction, Manipulation and Performance

著者 :Rhys Thomas

ISBN :0-943292-26-3

出版 :Flaming Sparrow Press

Box 82289, Portland, Oregon 97282, USA

+1-(503)-653-2614

<http://www.foreworks.com>

体裁 :らせん綴り(comb binding) 60 ページ

価格 :16 ドル

Serious Juggling, Renegade などのジャグリングショップでクレジットカードによる通信販売で購入が可能です。

Flaming Sparrow Press も通信販売をしていますが、クレジットカードが使えず、国際為替で送る必要があります。

また、ロープの両端を編んで球状のおもりとした Monkeyfist Meteor も、Serious Juggling, Renegade で販売しています(まだ、カタログには出ていないようなので、問い合わせてください)。

Flaming Sparrow Press では Monkeyfist Meteor の他に、おもり部分を取り替えて火流星や水流星にもなる Universal Meteor を販売しています。

おまけ :

ニエ・アールジョン氏の中日雑技交流会のページ(流星の写真があります)

<http://www.i-kochi.or.jp/hp/kochifaz/h/fair/zatsugi.html>

.....

先号の記事

「ジャグリング用品個人輸入の手引き -その2-」に関する追加情報 :

先号のジャグリングショップ・リストで、連絡がとれず状況不明となっていたイギリスの Beard から、忘れて頃に連絡が来ました。通信販売は行っており、VISA, MasterCard が利用可能だそうですので、一応お知らせしておきます。



ソフトウェア紹介

マラバリソフト (MabarSoft) 制作による サイトスワップ生成・表示ソフト『サイト君』を紹介いたします。
なお作者である加藤さん、吉野さん、今村さんからコメントをいただいておりますので、併せて紹介いたします。

【サイト君 ver1.00】

指定された条件に適合するサイトスワップパターンを全て生成し、またそれをその場でデモンストレーションしてくれる驚異のソフト『サイト君』がついに登場!

主な特徴

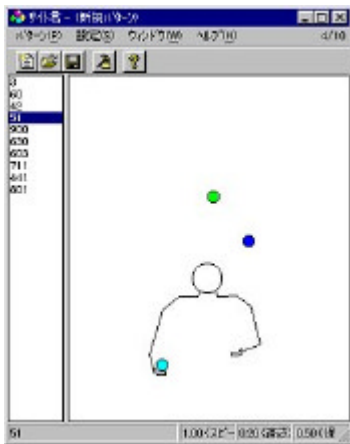
サイトスワップパターンの自動生成
アニメーションの表示
生成されたサイトスワップの保存
フリーソフトウェア
ファイルフォーマットは JuggleMaster 互換
2000年問題対応済

動作環境

OS : Windows 95/98/NT
CPU : 80486以上 (Pentium以上推奨)
メモリ : 8MB以上
ハードディスクの空き容量 : 1MB以上
その他 : Direct X 推奨

作者

このソフトは「マラバリソフト MabarSoft」のもので、
また著作権は加藤邦道さん、吉野太郎さん、今村悟さん
の3氏にあります。



ジャグリングと私

【清藤将仁さんの場合】

私がジャグリングをやってみようと思ったのは、ほんの数年前である。

ジャグリング自体、「曲芸」という意味で知っていたが、昔からサッカーのボールリフティングやお手玉は大の苦手で、自分には無理だと思っていた事もあり、全く興味すら無かった。

しかし、ひょんな事から現在の JAM (綾瀬ジャグラーズミーティング) の野外練習を見学させてもらった際、公園中の人たちが自分達を見、中には拍手してくれている人までいるという、この普段体験することの出来ない、異様なまでの空気にただならぬ感動を覚えてしまった。

公園の真ん中でジャグるだけで誰でも主役になれる。それに気付いた時、ジャグリングは私の生活の一部になってしまっていた。

入手先

以下のWebからダウンロードできます。

<http://msgkb.ms.u-tokyo.ac.jp/malabaristas/download/>
<http://plaza4.mbn.or.jp/chansuke/site.html>

作者からのコメント

加藤邦道 <KFA07367@nifty.ne.jp>

サイト君の誕生は必然的なものでした。Windows で何かソフトを作りたいと考えていた加藤と、UNIX で既にサイトスワップジェネレータを作成していた今村、アニメーションに興味を持っていた吉野の3人が揃っていたからです。
制作においてはそれぞれの担当を明確にしました。今村がサイトスワップ生成部分、吉野がアニメーション表示部分、加藤がその他インターフェース部分です。
今回の私自身の目標は「ユーザに何も感じさせないこと」でした。
下手なソフトでは「ここ、もう少し使やすかったらいいのに」と思うことが必ずあります。それをなくすことに多大な労力を費やしたのですが、果たして狙い通りになっているでしょうか?

吉野太郎 <s80544@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp>

アニメーション部分は「高性能ディスプレイではなめらかに、悪いディスプレイでもそれなりに」動くことを目指しました。
そのため、タイミングをとるのにはタイマーでなく垂直復帰信号を使っています。
現在の見た目は JuggleMaster のそれと同じですが、これから徐々に拡張していこうと思っています。
将来、三次元化やパッシング対応等も考えていますが、まだ細かい部分は全く決まっていません。ご意見、ご感想をいただければ、それらを探り入れて少しずつ成長させていきたいと思っています。

今村悟 <s90504@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp>

ぼくがサイトスワップジェネレータを作ろうと思ったきっかけは、Charlie Dancey 著 "Encyclopaedia of Ball Juggling" にサイトスワップの一覧が載っているのを見たことでした。
最初のプログラムは、ただサイトスワップ一覧を出力するだけのもので、アニメーション表示は JuggleMaster に任せていました。
生成スピードも今のとは比べものにならないくらい遅いものでした。
今後サイトスワップをもっと研究して、プログラムをどんどんバージョンアップしていくつもりです。
とりあえず次はマルチプレックス(一度に2個以上のボールを投げるパターン)に対応させたいと思っています。

ジャグリングを始めてからというもの、これまでの生活と比べ、大きな変化が起きた事が二つある。
一つは手帳のスケジュール表がどんどん埋まっていくこと。
もう一つは様々な人たちと出会う機会が多くなったことだ。

最近では新規のイベントで、また色んな人たちに出会えるんだということにたまらないワクワク感さえ覚えるようになった。そして会心の演技が出来たとき、メンバー全員、声をそろえて言う。

「いやあ、今日のイベントは本当に楽しかった!」

これだからジャグリングはやめられないのだ。

ジャグリング。私にとってそれはコンビニで立ち読みする以上に生活の一部と化している。
どうもこれは一生涯続くようだ。

[清藤 将仁 <marjie@super.win.ne.jp>]



フェスティバル紹介

この春、気になるフェスティバルが開催されます。ジャグリングとは直接関係ありませんが、超一流の劇場クラウンが東京都墨田区に集結するというものです。まずはこの「SUMIDA 国際フル祭」の事務局からコメントを紹介し、その後にフェスティバルの概要を掲載します。

『これだけのクラウンが集まって公演するのを観るのはめったにないチャンス！是非たくさんの人に見て欲しいと思っています。スポンサーなしでやっていますので、できるだけ多くの人に声をかけて、お誘いあわせのうえ会場までいらして下さい。』

【SUMIDA国際フル祭】

フル (愚者 = 賢者)

シェークスピア劇の道化 (クラウンは愚者 (フル) と呼ばれますが、王様や女王様の < 心の本音 > を受け持つ役回り、実は賢者 (フル) の意味でもあります。

はじめに

私たちはこれまでも文化・芸術的な活動を通して、時代との関わりを作り上げてきましたが、その活動をより大きなステージで展開し、より広範囲なコミュニケーションが活発に行われるようにすることこそが、今、求められていると考えています。

さらに、この企画の根底には、幼いときから本物の文化・芸術に触れ、文化・芸術にそれぞれが確かな目を持ってもらいたいとの願いがあります。それこそが、次の世代に不可欠な知性の創造の糧となると信じるからです。

第一回目となる2000年には、特にこの点を重視し、単なるイベントというよりも、劇場中心の活動を組み立てていきたいと考えています。

墨田区両国にあるシアターXは、その企画力で他の追従を許さずしかも内容において世界的評価を得ています。このシアターXがこれまで培ってきた創造性をベースに、隅田川・墨田区・SUMIDA (隅田川・墨田区を、ひとつの新しい、より大きな空間としてとらえるためにローマ字表記にしました) という、より広域での創造活動に、より多くの人々のエネルギーと知恵を終結し、新しい時代の文化・芸術の発信地を作り上げていきたいと考えています。

内容

国内外からのアーティストによる劇場公演

公演予定者：
マーシャ・デミトリー (スイスのクラウン)、ノーラ・レイ (イギリスの女性パントマイマー)、デュオ・アリンガ (イタリアの男女コメディークラウン)、BPズーム (フランスの男2人のクラウン)、ジュリアン・シャグラン (イスラエルのパントマイマー)、あらい汎、山本光洋、五人囃子
なおオープニングにプラコメ祭として、プランB コメディナイト出演者他パフォーマー多数出演。
フィナーレには、狂言師・茂山あきら氏出演予定。

学校公演

海外からのアーティストによる、小・中・高の学校訪問公演
会場 (曳舟文化ホール等)にて、保育園児、幼稚園児のための公演

ワークショップ

海外アーティストによる、身体表現ワークショップ

コンGRES (学術会議)

身体表現と他のジャンルの交流についてなど、テーマを変え、期間中に数回実施

その他

幼稚園、保育園、福祉センター、老人ホーム等への訪問公演

開催期間

2000年4月20日 (木) ~ 30日 (日)

開催場所

シアターX、曳舟文化センター、墨田区にある劇場、学校の講堂または公共施設 (区民ホール、公民館等)

実行組織

SUMIDA 国際フル祭2000実行委員会

問い合わせ : アフタークラウディカンパニー

Tel : 03-3403-0561

WebSite : <http://www3.alpha-net.ne.jp/users/accircus/>

編集後記

今回も多くの人に寄稿いただき御礼申し上げます。おかげさまで本号も自信を持ってお届けすることができます。特にプロのアーティストの方々にはお忙しい中、いろいろと私のわがままにお付き合いいただき、頭が下がります。本当にありがとうございました。

ジャグパルは私という個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行しているものです。従って特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係しておりません。

たくさんの郵便切手をいただきました。本来ならば個別に書状をもってご挨拶すべきですが、いただいた趣旨に反することになりますので、失礼ながらこの場をお借りして御礼申し上げます。

えっと、引き続き郵便切手の寄付は受け付けております... デス (笑)
それと切手だけではなく、原稿ももちろん募集しております。

ジャグパルはWeb上でも見られます。(Webだと写真等はカラーです)

紙での郵送が不必要な方はご連絡ください

WebSite <http://homepage1.nifty.com/abesan/>

編集発行人 : 安部保範

住所 : 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)

Email : abesan@bf.mbn.or.jp Nifty : QGB02014

WebSite : (見世物広場) <http://plaza4.mbn.or.jp/chansuke/>